



まるごとてんぱく 探訪シリーズ



地域に笑顔があふれるまちづくりを目指し、各学区における地域のつながりや地域独自の魅力をお届けします。

天白区を5つのエリアに分けて、該当エリアの区政協力委員長と区長の懇談の様子をお伝えします。

第3回目は、大坪・表山・八事東の3学区の皆さまです。

学区の見どころは何ですか？

(大坪) 現在、大坪学区と言えば名城大学と東山公園の入り口が近いというところでしょうか。今、名城大学のグラウンドがあるあたりは、昔は池だったところで、「天白溪」という景勝地でした。大坪学区はどんどん変化しています。かつては何もなかった。昔から住んでいたのは1軒か2軒でした。そこにどんどん新しい人が入ってきて、ムラの人間とマチの人間の融合体のようなものになったと思います。今は、高齢者と学生の町といえるでしょうか。

(八事東) 今日は大坪、表山、八事東の三学区が集まっていますが、この三学区の元は我が八事東学区になります。徳川時代に興正寺ができて、今の八事の交差点あたりを「八事」と呼ぶようになったようですが、元々八事という意味の現在の「元八事」あたりが本来の「八事」でした。今コミセンがあるところ（元八事二丁目）に集荷場があって、八事五寸ニンジンを集荷し、そこから一斉に市場に出していました。これが農協の前身となっています。また、「大学院」という古いお寺さんを中心に、念仏講や庚申講など古いしきたりが多くありました。それらは今はすたれてしまいましたけれども、お祭りにはたくさんの皆さんが集まってくれています。

(区長) 私も、昨年学区のお祭にお招きいただきましたが、地域の皆さんがすごい熱量でやっていらっしゃるのを見ました。そのあたりも魅力と言えますね。

(表山) 表山学区の魅力は何といっても「坂」ですね。僕は30年ぶりに里帰りして今のところに住んでいます。自分の趣味が自転車ということもあって、「坂」の多さは魅力的です。表山小学校の坂、工務店社員寮の坂、御幸山中学校の坂など、自

分を試される坂が多いです。坂が多いと景観もよくて、御幸山にある塩竈神社を始め寺社も多く、桜もきれいで、そういうところが魅力になると思います。

(区長) この地域は、かつて「天白溪」や「八事遊園地」などがあり、県下屈指の行楽地として賑わったところでした。そして、今、委員長さん方がおっしゃった見どころのほかにも、大きく広がる大学キャンパス、起伏に富んだ地形を活かしたマンション群、坂の頂からの見事な眺望など、天白区制50周年を契機に、より一層その魅力を発信していきたいものです。



学区運営にかける思い

(大坪) 学区の運営は、区政協力委員会（以下、区政という）と学区連絡協議会（以下、連協という）の二本立てになっていますが、もっとシンプルに分かりやすくした方がいいと思っています。この仕組みを理解するだけで時間がかかってしまう。まつりなどをやるときは協力し合えるのでそこは素晴らしいと思いますが、ただ、両方でやることの意味は考えていく必要があると思います。また、町内会について、非加入者が増えていく中で、街路灯などの経費は町内会が負担しているわけです。こういった区民の安心・安全を守るものについては加入・非加入に関わらず役所をお願いしたいところです。

(区長) 学区運営において区政協力委員と保健環境委員の役を兼務されている方が多いのは天白区に特徴的な傾向のようで、他区ではあまりないようです。

(大坪) 大学生の皆さんが地域社会貢献というのをやっています。ボランティアサークルのような。ああいうのを広げて町内会も地域貢献だと言えば、人が集まって困らないんじゃないかな。

(区長) 大学生の皆さんが就職活動で面接を受ける際には、例えば、大学生消防団など学生時代に取り組んだボランティアが、自分のアピールポイントとして活かせるということもあるようです。

(八事東) 八事東は前の前の学区長が数十年、前の学区長が20年やってこられて敷かれたレールに乗っているだけでして、学区運営についてそれほど困っていることはないと思っています。区政協と連協ということで言えば、八事東は完全に区政協力委員、兼災害対策員、兼保健環境委員ですから、ほぼ1本でやっています。連協の会議は年1回程度で、事業報告・予算報告をやる程度です。問題と言えば、サロンなどの様々な事業を運営していく上で、実際に携わるボランティア的な人材が育たないことが問題です。特定の事柄だけでよいのでそれをやってくれるボランティアが育てばいいと思っています。あとは、何かあるとすべて自分(委員長)の所に話が来るので、うまく他の役員に分担してもらうようにしています。

(区長) そうですね。昨年、夏祭りにうかがったとき、会場中央に設置された二段櫓の迫力と道路にまで溢れんばかりの人が集まっておられたのには驚きました。また、近藤委員長が他の学区役員の方々と巧みに連携され、お祭りを機敏に差配される様子は本当に圧巻でした。

(八事東) 八事東のお祭りは表山からも大坪からも寄ってきてくれるんですね。いろいろな行事をやりと収拾がつかなくなるので、盆踊りなら盆踊りだけと決めて集中してやるのがいいと思っています。

(区長) 今、天白区制50周年記念イベントである「かばっちミーティング in コミセン」の企画案を各学区からご提案いただいておりますが、確かにこれまでの行事とうまく組み合わせてまとめて

開催するという案が多いですね。行事をまとめて盛大にやるというのは、今の時代にフィットしたやり方だと思います。

(表山) 表山では、新しい取り組みとして、成人式を「20歳のつどい」として、今までの「大人が提供する」というやり方から「新成人が主体性をもって参加する」という方向性にしたいと考えています。また、学区で一番元気な人たちが敬老会などの方たちなのですが、積極的に清掃活動や学童の見守り活動に参加してくださっていて、それもまたいいことだと思っています。ただ、実際に地域の高齢化も進んでおり、やれなくなっていくことも出てきます。それなりにマンパワーを集約して、やれることとやれないことを精査し、現役世代が参加しやすいように、上手に組織形態を変えていく方向で進めています。既存の形だけで行けるとあってやってしまうと難しい面が出てきますから。

(区長) そうですね。町や時代に合うやり方にしていくことは大切だと思います。行政としても、そのところはよく考えていく必要があると感じています。



この次の50年に向けて地域の子どもたちに伝えたいこと

(大坪) 集合住宅に住んでいて、鍵が開く音がすると、昔だったら自分も出て行ってあいさつしたものだったけど、最近は足音がなくなるまで部屋の中で待っているようになってますね。

(区長) そういうところが多いかもしれません。

(大坪) そういう人たちをまとめるのはかなり難しいです。最近は子どもに限らず、大人でも引きこもりなどが増えている。そういう人たちが自立できるようにしていく必要があると思います。

(区長) まずあいさつをして、声を掛け合うことが大切だと思います。出勤時、子どもたちに声掛けをしているのですが、最初は反応がな

かったのが、声を掛け続けるとだんだんあいさつしてくれるようになって、さらには向こうから話しかけてくれることも。それがすべてではありませんが、とても大切なことですね。

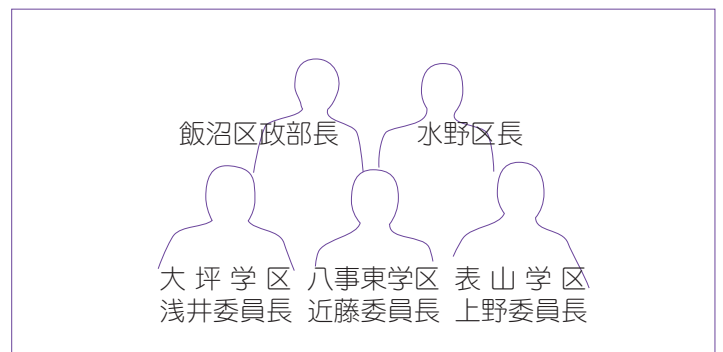
(八事東) 僕らが子どもの頃って、隣の家にずかずか入って行って、テレビを見せてもらったりしていました。今やったら、大変なことになっちゃいますよね。プライバシーの問題など考え方の变化から、揉め事が大きくなっている。そういう変化をもとに戻すという方向性もあるのではないのでしょうか。まずは、先ほど区長さんがおっしゃったように「あいさつ」をすることから始めるのはいいですね。

(区長) 昨年の夏の「子ども区民会議」でも「地域のつながり」が大切という意見がでました。今の時代、成果を出すためにどんどん突き進むことが大事であるかのような空気が社会を覆っているような気がしているのですが、古くても大切にしていけないといけないものは、たくさんあると思います。

(表山) 表山学区での会議などは現役引退世代が盛り立ててくれているのが現状です。表山学区も高齢化が進み、子どもの数が減っていますので、いろいろな活動をどう伝え、継承していくかは、難しいところです。もともと地区にお祭りとか伝統がない新興地区でもあり、結びつきが弱くなってしまうのは、今や避けがたいことです。これからは、若い世代に働きかけて、彼らが動きやすい環境を提供し、つながりを切らないようにするにはどうしたらいいのかを考えながら、うまくバトンタッチしていきたいですね。彼らが受け身ではなく、主体性をもってやっていく中で「地域」を意識してもらえればと思います。

(区長) そうですね。若い人たちが発起して、子どもたちに刺激的な取り組みができるといいですね。今回、天白区制 50 周年記念事業ということで、いろいろと学区で「地域に笑顔があふれるまちづくり」に取り組んで頂いておりますが、その中で、これからの時代を担っていく子どもたちが自分の住んでいるまちの素晴らしいところを印象深く感じ、これから先も「天白区に住みたい」とか、「戻ってきたい」と思ってもらえるといいなと思っています。昔、「八事のあたりには遊園地があって、天白溪には飛行艇があって」、そんな話を聞くとワクワクしますよね。もちろん今はもうありませんが、そういうものがあつたんだということも、この機会に広く区民の皆さん

にお伝えして、地域でワクワクすることをもっと増やしていこうという気持ちになっていただけたら嬉しいですね。



大人たちが大切にしてきたまちを
子どもたちに伝え、それを子どもたちが
また大切に育んでいく。
そうやってずっと住み続けたいくなる
まちがつくられていくんだね。

